

# トピック 田村遺跡群 いせきぐん

1996（平成8）年から2000（平成12）年にかけて、新たな高知空港拡張整備事業にともなう発掘調査が行われました。

前回（昭和55～58年）の発掘調査では、縄文時代から近現代にいたる各時代の集落跡や遺物が見つかりました。特に、弥生時代と中世の2時期のものが多く見つかっています。

今回は、飛行場滑走路より北西部の調査でしたが、前回同様、弥生時代を中心に非常に多くの集落跡、遺物などが見つかりました。

「土佐の登呂」と呼ぶにふさわしい調査結果となっています。

## 遺物出土の様子



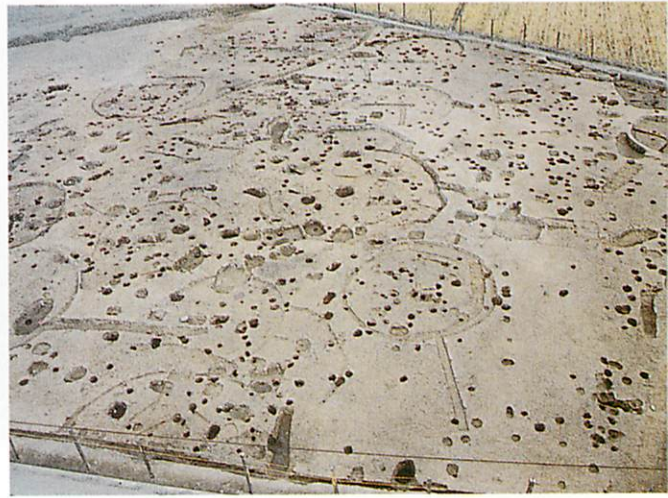
## 掘立柱建物 絵画土器 ほったてばしら

当時の建物の様子がわかる貴重なものです。



## 弥生時代の住居跡

いくつもの住居が重なっており、建て替えが行われたことがわかります。



## 人面動物型土製品 どせいひん

弥生時代のものとしては大変めずらしいものです。



# トピック 発掘体験



発掘調査を体験する三和小の6年生

1999（平成11）年、県道の改良工事にもない、事前の発掘調査が行われました。

今回の調査で、弥生時代の土器片がまとまって出土しており、<sup>たてあな</sup> 竪穴住居跡、<sup>ちゆうけつ どこう</sup> 掘立柱の建物の柱穴、土坑等から、里改田でも、

弥生時代の集落が存在したものと考えられます。また、石器や石鏃、<sup>ぼうちよう</sup> 石包丁の出土も見られ、<sup>しりよう</sup> 狩猟・稲作を行っていたこともうかがえます。近くの田村遺跡と同じ時期に集落が存在していたわけで、田村遺跡の人々と、どのようなつながりがあったのか興味深いところです。

弥生時代に引き続いて、古代、中世の遺物（<sup>いぶつ すえき</sup> 須恵器、<sup>せいじ</sup> 青磁、<sup>とうじ</sup> 陶磁器等）をともなった柱穴や土坑等が見つかりました。調査の結果から、古代の建物も存在していたことがうかがえます。中世においても、<sup>しろあと</sup> 里改田遺跡周辺には城跡がいくつか存在し、里改田地域の役割や城主との関係等もまた興味深い課題です。

古代、中世と続き、さらに近世の土坑や井戸跡等の遺構や陶磁器、<sup>かわら</sup> 瓦等の遺物が発見されたことから、里改田には、近世以降も、集落が栄えていたことがわかります。

発掘された遺物

